

Tokyo College of Music Journal

2016年モントリオール国際音楽コンクール
ヴァイオリン部門で第1位に輝いた辻 彩奈さん(大学1年)



写真提供：モントリオール国際音楽コンクール
©Tam Lan Truong

〈特集1〉声楽専攻 可能性を見いだし、育成する 2

〈特集2〉東京音楽大学ならではの
プログラム・システムとは? 6

「合同レッスン」
「教職課程」の特徴／「教職課程 管弦楽・吹奏楽」の意義 8

挑戦する在校生・卒業生 10

〈シリーズ〉東京音楽大学から世界へ 13

〈シリーズ〉教育分野で活躍する卒業生 14

卒業生インタビュー 15

教員採用試験合格者／就職内定者インタビュー 21

Tokyo College of Music Journal NEWS / TOPICS 22

January
2017
No.44

東京音大ジャーナル44号
<http://www.tokyo-ondai.ac.jp>

Journal

January 2017 No.44

東京音大ジャーナル44号

発行日…平成29年1月31日 発行所…東京音楽大学広報課
TEL 03-3982-2717 FAX 03-3982-3317
〒171-1185 東京都豊島区南池袋1-1-4

TEL 03-3982-2717 FAX 03-3982-3317
<http://www.tokyo-ondai.ac.jp>



Concerts 2017

東京音楽大学主催演奏会(予定)

卒業演奏会

4月28日(金) 19:00 東京文化会館小ホール

シンフォニック ウィンド アンサンブル特別演奏会

7月12日(水) 18:30 千葉県文化会館大ホール

シンフォニック ウィンド アンサンブル定期演奏会

7月13日(木) 18:30 東京芸術劇場コンサートホール

ピアノ演奏会 ~ピアノ演奏家コース成績優秀者による~

7月28日(金) 13:00 東京文化会館小ホール

ソロ・室内楽定期演奏会

9月17日(日) 13:00 東京音楽大学100周年記念ホール

弦楽アンサンブル演奏会

10月7日(土) 時間未定 東京音楽大学100周年記念ホール

創立111周年記念オペラ公演「ラ・ボエーム」

10月21日(土) 17:00 東京音楽大学100周年記念ホール

10月22日(日) 14:00 東京音楽大学100周年記念ホール

シンフォニーオーケストラ定期演奏会

12月14日(木) 19:00 東京芸術劇場コンサートホール

[お問い合わせ] 東京音楽大学 演奏課 03-3982-2496

2017年度

東京音楽大学講習会日程

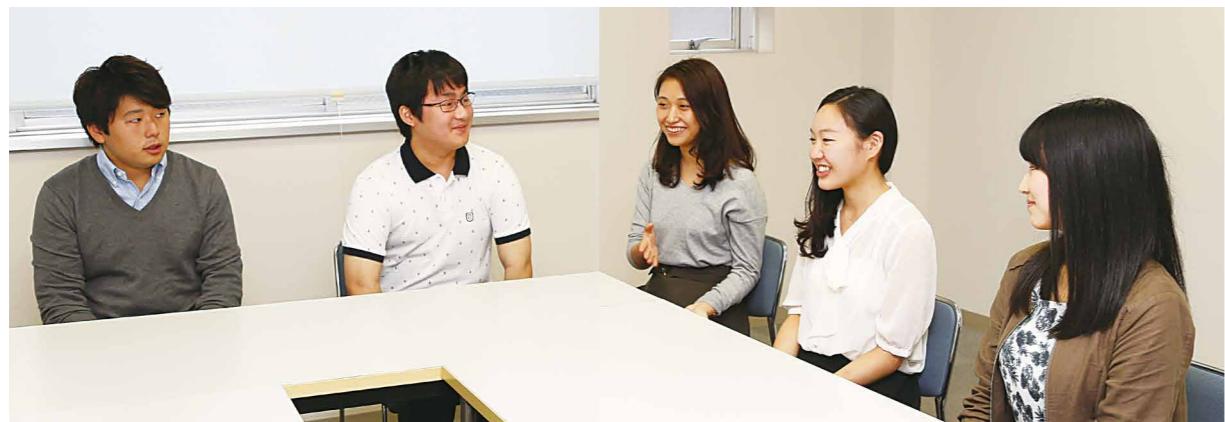
夏期受験講習会

8月1日(火)～8月4日(金)

冬期受験講習会

12月24日(日)～12月27日(水)

[お問い合わせ] 東京音楽大学 教務二課 03-3982-3221



左から 笹沼 悠亮・本郷 卓大・井出 千尋・岡田 美優・東 幸慧

学生座談会

無限の可能性が潜む

東京音楽大学 声楽専攻

「ものにできるか?」

それは自分次第

——本専攻2年生の皆さんにお話を伺いました。

音楽、そして歌との出会い

笹沼さん 中学の合唱コンクールで3年間指揮を担当して、音楽に魅かれ始めました。当時はピアノの道を考えていましたが、ケガをして、本格的に歌の道に進むことを考え、地元の先生の紹介で東京音楽大学を目指しました。

本郷さん 私も習い始めはピアノでした。歌が好きになったのは、幼稚園の卒園式でソロを歌う役に選ばれて以来です。高校2年のときに夏期講習で現在の恩師に出会い本学に入学しました。

井出さん 姉がピアノを習い始め、地元の少年少女合唱団に入団。私も、同じコースを歩みました。そこで歌う楽しさを大いに実感し、成長とともに歌への思いは強まつたと思います。私は東京音楽大学の講習会受講を進めてくださいたのは、ピアノの先生でした。

岡田さん 小学校1年から習い始めたピアノの先生が、本学の声楽専攻の出身で、私の声を気に入ってくれたり、歌のレッスンも受けていました。その後、東京音楽大学付属高等学校に入学し、思う存分に教室で歌えることに喜びを感じ、現在に至っています。

東さん 小学生のときには全く入った合唱部でソロを歌わせていただき、遅い人では高校3年生からでも専門に学ぶことを決め、受験に臨むことができました。大学入学時は宝石の原石のままで十分。そこから、徐々に人前で歌う機会を得て、少しづつ磨かれています。また、そのペースも人それぞれです。

一言に「声楽を学ぶ」といっても、そこには「オペラ」「歌曲」「合唱」「ミュージカル」など、さまざまな世界が広がっています。そして、音楽家として現役で活動している、各分野のエキスパートたちが、複合的に指導するのが本学の特色。個人レッスンでは教員とのマンツーマンで、オペラの授業では歌はもちろんのこと、演出家、指揮者、伴奏者、言語指導者やコレベティートル、助演の先生方に囲まれて、多角的な指導を直接享受する。加えて、バレエや所作の授業まで受講できます。そうした充実した4年間の大学生生活で、曲を通して他文化を知り、自分の身体を通して作品の共感を伝えられるようになります。人間としても大きく成長して、原石は輝き始めるのです。



特集1
声楽専攻

可能性を見いだし、育成する

人間にもつとも密接している楽器が「声」であり、感情表現をもつとも直接的に奏でる音楽が「歌」。声楽は、きわめて人間的な音楽を学び、追求する場所ともいえるかもしれません。声楽は、「声変わり」することもあり、遅い人では高校3年生からでも専門に学ぶことを決め、受験に臨むことができます。また、そのペースも人それぞれです。

年次から原語で歌を学ぶ。土台から固めていたいという実感があります。また、声楽専攻に限った話ではありませんが、教職課程では、実際に学校で教鞭をとられてきた先生方が指導。将来、私たちが教育現場に立つ際の実践的なノウハウがぎっしり詰まっています。

本郷さん 「教職課程管弦楽・吹奏楽」も声楽にプラスになることが多く、魅力的な授業です。特に管楽器の腹式呼吸法は、歌うときの息の使い方に自然と応用できるようになります。

井出さん 練習室もたくさんあり、インターネットで無料予約ができるのも便利。清潔でエアコンも完備されていて、音楽を勉強する環境に恵まれていると、つくづく感じています。

多角的に「歌」を学ぶ
魅力的なカリキュラム

笹沼さん 私たち学生一人ひとりに、多くの思いと時間をかけて指導しているだけいると感じます。しかも、複数の先生からいろいろな角度よりアドバイスを受けることもあります。「自ら考え判断する」習慣がつきました。

井出さん 私は語学力をじっくり習得したいと思っています。週に2回、ネイティブの先生と日本人の先生から教わる「イタリア語特別コース」は、言葉だけでなく歴史や文化など、幅広く学ぶ授業で、歌うことにもとても参考になるんです。

岡田さん 声楽演奏家コースのオペラに関しては、1年次にレチタティーヴォをしつかり学び基礎を固めた上で、2

東京音楽大学ならではの プログラム・システムとは?

特集2



指揮専攻の学生たちは、広上先生から手を替え品を替えた、矢継ぎ早の質問への即答を求められ、必死に自分の言葉を探しながら応えていきます。同時に、彼らは自己を再認識し、私たちアドバイザーやオーケストラに参加している有志メンバー、聴講生たちも、そのやりとりを自分に投げかけ、自分なりの答えを見出します。こうした「言葉で考え、言葉で伝える」術は、実社会でのコミュニケーションでも不可欠なもの。それを学ぶことは「人間力の高まり」を導きます。

専攻にかかわらず、積極的に参加してほしい

仲間が一団となって、音と息を一つに演奏する至福を共有しながら、人間力を高めることができます。それは決して妥協することなく、音楽と真摯に向かい続けてきた広上先生だからこそ、実現した授業だと思います。

この授業に求めるものは、人さまざまです。しかし、皆、そこから必ず何かを見いだして、「もっと努力しなければ」と自らを励ましています。ピアノや声楽など他専攻の方々も、音楽、そして人生を歩む上でヒントがきっと見つけられる場所が、「合同レッスン」なのです。

Ayako Shinozaki
篠崎 史子
ハープ講師
2014年2015年聴講生として在籍
以前、地方のアマチュアオーケストラで『第九』を指揮する機会を得ました。学生時代に指揮を習った経験こそありますが、基本、私はハーピストです。広



上淳一先生を訪ね、「合同レッスン」に聴講生として参加することになりました。この授業には、広上先生を筆頭に、指揮専攻の先生方と学生たちが勢ぞろいです。彼らは自己を再認識し、私たちアドバイザーやオーケストラに参加している有志メンバー、聴講生たちも、そのやりとりを自分に投げかけ、自分なりの答えを見出します。こうした「言葉で考え、言葉で伝える」術は、実社会でのコミュニケーションでも不可欠なもの。それを学ぶことは「人間力の高まり」を導きます。

指揮専攻の学生たちは、広上先生から手を替え品を替えた、矢継ぎ早の質問への即答を求められ、必死に自分の言葉を探しながら応えていきます。同時に、彼らは自己を再認識し、私たちアドバイザーやオーケストラに参加している有志メンバー、聴講生たちも、そのやりとりを自分に投げかけ、自分なりの答えを見出します。こうした「言葉で考え、言葉で伝える」術は、実社会でのコミュニケーションでも不可欠なもの。それを学ぶことは「人間力の高まり」を導きます。

専攻にかかわらず、積極的に参加してほしい

仲間が一団となって、音と息を一つに演奏する至福を共有しながら、人間力を高めることができます。それは決して妥協することなく、音楽と真摯に向かい続けてきた広上先生だからこそ、実現した授業だと思います。

この授業に求めるものは、人さまざまです。しかし、皆、そこから必ず何かを見いだして、「もっと努力しなければ」と自らを励ましています。ピアノや声楽など他専攻の方々も、音楽、そして人生を歩む上でヒントがきっと見つけられる場所が、「合同レッスン」なのです。

参加学生 INTERVIEW

音楽、そして人間を学ぶ 「合同レッスン」

佐々木 大芽さん ヴァイオリン
大学4年

オーケストラでは、人の音をよく聞きながら、自分も主張することが重要。時には我慢も必要です。「人間同士が対峙しながら音楽を創りあげる」上での思慮やコミュニケーション方法を学ぶ機会は、専攻の違いにかかわらず、必ず一生懶れ役立つものと感じています。

Ayako Shinozaki
篠崎 史子
ハープ講師
2014年2015年聴講生として在籍
以前、地方のアマチュアオーケストラで『第九』を指揮する機会を得ました。学生時代に指揮を習った経験こそありますが、基本、私はハーピストです。広

参加学生 INTERVIEW

自分なりに解釈 する術を学ぶ場

石井 柚莉乃さん ピアノ・創作「ース
大学2年

中学1年のときから学生オーケストラや市民オーケストラでヴァイオリンを弾いてきました。大学1年の年末、指揮専攻の友人から「合同レッスン」を聽講できる」と聞き、私も参加してしまいました。初回は聴講だけでしたが、そのエネルギーな授業内容に魅せられ、年明けからは、私もヴァイオリンで参加しています。以来、そこにピアノや作曲を学ぶ上でもとても参考になることも多く、毎回、授業を待ち遠しく感じています。

学生・市民オーケストラの場合、指揮者はある意味で絶対的な存在です。

私も以前は、演奏面で指摘されたことを熟考することなく、素直にそのままパート譜に書き込んでいたものでした。一方、この授業では、指揮専攻の学生が交代で指揮台に立ちます。指揮者一人ひとりの解釈や練習の進め方は異なる指導が入ります。そのため、指揮者からの指摘をそのまま受け入れるのではなく、それを自分なりに解釈・判断する術がつくようになります。そして、同じ楽曲でも、そこに見える景色が以前とだいぶ違うように感じるんです。

また、「合同レッスン」での広上先生の指導は、学生の生活や悩みなどをさりげなく聞きながら、どんどん本題に入っています。それは、「人間教育」の現場に立ち会っているよう、音楽、そしてそれを奏で創り上げていく人間の本質を、演奏者として参加している私も、徐々に少しづつ理解させていたいというように感じています。

Yoshiko Kawamoto
川本 嘉子
ヴィオラ奏者 特別アドバイザー
2013年、2014年聴講生として在籍
演奏家の私は、いつもエネルギーを一

すべての専攻に有意義な「人間道場」

音楽大学は、単に演奏家だけを養成する機関ではありません。「学生たちに、音楽の探求とともに、人として成長してほしい」と願うのが東京音楽大学です。その象徴ともいえるのが、広上淳一教授を中心に繰り広げられる「合同レッスン」。指揮専攻の授業の一つに位置付けられていますが、そこには日本を代表する演奏家をはじめとした、学内外の多くの有志がボランティアで参加。奏者としてオーケストラを構成し、アドバイザーとしてレッスンを見つめています。なぜなら、そこは見栄や既成概念をリセットし、一人の人間として己の姿を見つめ直す、「人間力を養う道場」だからです。

指揮専攻の学生たちは、そこで団員とともに音楽を創り上げる上で何よりも必要な愛情豊かな人間力、瞬時に言葉で伝え伝えるコミュニケーション力や表現力を養う機会を与えられ、自ら問い合わせをきっかけを享受します。同時にそれは、有志で参加する奏者たちにとっても、他人を見て己を知るチャンス。誰もが自分に問いかけ、見つけるのです。広く門戸を開く「合同レッスン」は、誰の参加も拒みません。ここで人間の本質を学ぶ経験は、専攻にとらわれることなく、聴講生を含む、すべての参加者にとって有意義なものに違いありません。



「言葉で考え、言葉で伝える」とを学ぶ

指揮者は楽器を使用しません。そのため自分が曲に対しても描くイメージを、タクトや身体を使つた意思伝達に加え、的確な「言葉」に瞬時に置き換えて、奏者に伝えなければなりません。そして、「合同レッスン」ではそのためのトレーニングが毎回なされています。

方的に放出してしまうので、それは枯渇してしまいます。この授業では仲間たちと、音楽を語り合うことができ、私に心のバランスと癒しを与えてくれています。また、「合同レッスン」では、「結局音楽とは人間なんだ」と、いつも痛感させられます。それは、たまたま「指揮のレッスン」というカテゴリーではあります。が、音楽を通じて「人間力を高めるヒント」を示唆され、学ぶこともその本質の一つです。

「教職課程」の特徴

2016年度教員採用試験では、29名の本学学生および卒業生が合格(※)。昨年(20名)を大きく上回りました。音楽とともに、4年間切磋琢磨してきた学生たちが、レッスン・授業・アンサンブル、そして学生生活で会得した財産を中学校(小学校を含む)・高等学校の児童・生徒に伝えるために、来春も巣立っていきます。

本学の「教職課程」では、学生たちが卒業後の教育現場で、自信を持って生徒たちと対峙でき、さまざまな壁を乗り越えられるように指導しています。そこで「教員＝人間」の核として培う「人間力」は、たとえ教員にはならなくとも、必ずや生涯役立つでしょう。

豊富な在学中の「つながり」

教育現場に見習い期間はありません。赴任直後から一人の教員として指導を担うのです。そのため、教育実習の経験しかない学生は、当初から戸惑います。それは座学では学べず、実体験が必要です。本学では近隣の中学校などにボランティアとして受け入れていただき、音楽の授業や課外活動・学習支援が必要な生徒のサポートまで、在学中に教育現場を知る「つながり」を擁しています。また授業でも、学生同士が協力し合って勉強する「横のつながり」と、卒業生が自らの経験とノウハウを後輩に伝える会など、「縦のつながり」も確立されています。多くのつながりで、学生たちが孤立せずに教員を目指せるのも、本学ならではの特徴です。

※2017年1月14日現在。詳細は21ページ参照

「教職課程 管弦楽・吹奏楽」の意義

「教職課程管弦楽・吹奏楽」は1973年に開講。毎年、一学年の100人以上が履修する、本学の人気授業の一つです。その最大の特徴は、「履修する学生たちが、自分の専攻外の楽器を前にしても、教壇に立つ際も、また課外活動等で指導する時も、自信を持つて生徒と接することができるようになる」ことです。

うまく演奏できない子どもの気持ちを知る

音大生たちは楽譜は読めますし、自分が奏でたい音のイメージも持っています。また、指導する教員が自分のすぐとなりで演奏するため、「本物の音」も聴こえています。しかし、弦楽器なら指のしづわ一本で、管楽器なら息の強さだけで音程は変わるもの。初めて接する楽器に、学生たちは戦慄苦闘します。そのため、将来自分が教える「うまく演奏できずにもがく生徒」の気持ちを、学生時代から知ることができます。

教員に必要なマルチな資質を習得



MESSAGE
渡辺 成子さん オルガン 1990年大学卒業
埼玉県鴻巣市立鴻巣中学校教諭

教育実習で教員になることを固く決意

中学の音楽の授業で、バッハの『フーガト短調』のパイオルガンの音色をレコードで初めて聴き、私もいつか弾いてみたいと思っていました。その後、東京音楽大学付属高等学校で毎週オルガンのレッスンを受けました。

その後大学にはオルガン専攻に進み、専門的に学ぶようになりました。

「教職課程」を履修していた私は、大学4年次の教育実習で、吹奏楽部の顧問も担当させていただきました。それは短い期間ではありますでしたが、私のアドバイスを通じて生徒の演奏技が上達。私が伝えることを生徒たちが理解し、彼らと一緒に演奏を仕上げていきました。そして、それまで入賞していなかつた部がコンクールで入賞を果たし、それが私の大きな自信につながりました。そして、教職の道に進もうと決意しました。



柳田 莉穂さん ピアノ 大学4年

先生方のおかげで、『団体戦』で受験に向かえた

5歳からピアノを習っていましたが、中学校で出会った吹奏楽部の顧問に憧れ、将来音楽教員になることを夢見ることになりました。そして「立派な教員になるためには、ピアノで演奏していかなければいけない」と決意しました。



阪上 由夏さん ピアノ 大学4年

「うまく弾けないとときの気持ち」を理解する

小学校でトランペット、中学校でクラリネットと、管楽器の経験はありました。弦楽器に触れる機会がなく、それをオーケストラで体験したかった私は、2年次に「教職課程管弦楽」にチャレンジしてきました。ピアノは鍵盤を叩けば正確な音程が出ますが、弦楽器ではそうはいきません。一つひとつの音に耳を傾けて演奏する大切さと難しさを、この授業を通じて身に染みて知ることができました。また、先生方が奏てる、「本物の生音」の体感もとても貴重な経験だったと思います。

この授業での経験は、教員採用試験時でもとても役立ちました。例えば東京都の採用試験では、オーケストラのスコアからも出題されました。過去の問題には、この授業で演奏した曲が多くありましたので、自信を持って臨むことができました。また、弦楽器の弾き方についても出題されており、専攻外の多種

生徒に音楽を好きになってほしい

他の音楽大学出身の先生方と会話して、東京音楽大学で自分が学んだ授業は、本学ならではの教育カリキュラムだったことを知りました。それは「教職課程管弦楽・吹奏楽」をはじめ、邦楽器演奏、

民族音楽などに取り組めたことです。中学校学習指導要領には、3年間で1種類以上の和楽器に触れる旨が書かれていますが、大学で演奏技が上達。私が伝えることを生徒たちが理解し、彼らと一緒に演奏を仕上げていきました。そして、それまで入賞していなかつた部がコンクールで入賞を果たし、それが私の大きな自信につながりました。そして、教職の道に進もうと決意しました。



赴任先の中学校では、16クラスの音楽授業を一人で担当し、吹奏楽部も指導、そして学級担任もしています。一人で何役もこなすのは大変ですが、充実感でいっぱいな日々。卒業生間で力を合わせて曲を創り上げる喜びや楽しさ、コミュニケーションの大切さを経験。今でも貴重な財産です。

アーノの演奏力も高めるべき」と考え、本学のピアノ専攻に入学しました。

本学の教職課程の魅力は、先生方との距離がとても近く、教育現場で応用できる、実践的な指導を受けられることです。加えて、私たちの人間性を高めることにも注力いただけます。例えば、教員は毎日、朝早く出勤します。そのため、教職関連の授業は朝早い時間にかかります。

「受験は団体戦」だとよく言われます。「先生方の熱意」「教育現場を熟知する諸先輩の博識と経験」、そして「学生たちの仲間思いと団結力」。これらが三位一体になっていることこそ、本学の教職課程の特徴であり、強味だと思います。

これまで、教員としての心構えなども「生の声」を休まず受講することで、「教員としての基本的な姿勢」を作るように指導され、これまで、夏休みには、実際に教育現場で指導されていた方

から、それと併せて、授業での心構えなども「生の声」を休まず受講することで、「教員としての基本的な姿勢」を作るように指導され、これまで、夏休みには、実際に教育現場で指導されていた方

多くの在学生、卒業生がコンクールで受賞しました。その一部を紹介します。

辻 彩奈

2016年モントリオール国際音楽コンクール

ヴァイオリン部門第1位

(ヴァイオリン・大学1年) 併せてバッハ賞・パガニーニ賞・カナダ人作品賞・ソナタ賞・セミファイナルベストリサイタル賞の特別賞を受賞



若手演奏家の登竜門 モントリオール国際音楽コンクール優勝

挑戦者として臨んだコンクール

2016年6月、私は師事している原田幸一郎先生に勧められ、「モントリオール国際音楽コンクール」に挑戦しました。

世界中から選ばれたトップレベルの参加者がカナダに集まり、予選、セミファイナル、ファイナルの3回のラウンドが行われました。セミファイナルまで進んだとき、ほかのすべての参加者が自分よりも上手に思えて、気持ちが折れそうになつたときもありました。でも自分は挑戦者だという気持ちで臨んだコンクールで、「挑戦」するということはそれが当たり前なのだと思いました。そう思えたとき、無我夢中で弾いていた自分がいました。ファイナルでは、モントリオール交響楽団と2000人以上を収容する大ホールでシベリウスの協奏曲を演奏しました。弾き終わったとき、すべての力を出し切れたこと、そしてその舞台に立ち、こうした素晴らしい経験ができたことに心から感動したことを今でも覚えています。

私はこのコンクールに参加された方々から、技術的にも精神的にも多くのことを学びました。また、一瞬に集中することの難しさ、何よりも「挑戦」するということはとても厳しく、周りよりも、自分自身に「挑戦」することだと改めました。そして今回のモントリオール国際音楽コンクールを含み、これまでの国際大会を通じて、音楽の原点でもある、「音楽を楽しみ、自分の音楽を表現することの大切さ」に気づくことができました。

今後の勉強や演奏活動にワクワクする気持ちの一方、これからが本当の「挑戦」なのだと、身の引き締まる思いでいっぱいです。常に緊張感を持ち、いただいた機会に出会いを一つひとつ大切にしながら、驕ることなく挑戦者として精進していきたいと思っています。

や出会いを一つひとつ大切にしながら、驕ることなく挑戦者として精進していきたいと思っています。東京音楽大学は私の挑戦を応援してくれる学校です。素晴らしい先生方との出会いや、理想的な環境で勉強できることにとても感謝しています。自分と厳しく向き合って、集中して自分自身に挑戦できる、そんな環境が東京音楽大学にはあると思っています。



写真提供：モントリオール国際音楽コンクール

寺田 功治 第85回日本音楽コンクール

声楽部門第2位

Koji Terada



Profile
英国ギルドホール音楽演劇学校から奨学金を受け2011年大学院修士課程オペラコース修了。ネザーランド・オペラ・スタジオ研修生修了。第57回全日本学生音楽コンクール大学一般部全国大会第1位、第6回東京音楽コンクール第2位他国内外のコンクールで多数受賞。

瀧本 実里 第85回日本音楽コンクール

フルート部門第3位

Misato Takimoto

日本音楽コンクールのフルート部門は3年に1回の開催。大学で積んだ研鑽の集大成として臨みました。先生からは「レッスンで学んだことを一度心にとめたら、自由に吹くよう」アドバイスをいただきました。コンサートを全楽章演奏する機会はめったなく、演奏している間はとても楽しく幸せでした。この大きな舞台を踏めたことで、少しだ自信がついたと思います。まだ大学ぶべきことも多く、今回見つけた課題を克服しながら、さらに成長していくように頑張ります。



Profile

栃木県出身。小学校の吹奏楽部でフルートを始める。第11回仙台フルートコンクール第1位。現在、東京音楽大学4年に在学中。これまでに、坂本しおる、工藤重典の各氏に師事。

幼い頃からの「憧れのコンクール」に入選したことを、とてもうれしく感じています。複数の曲を同時に仕上げたり、オーケストラとコンサートを演奏するなど、このコンクールへの挑戦で学んだことはとても多く、今後、さまざまな形でその貴重な経験を生かしたいと思います。東京音楽大学は、本人のやる気や努力する力があれば、多くのチャンスを与えてくれる学校です。これから本学を目指す方々にも、挑戦する気持ちを抱き、積極的に学んでいただければと思います。



Profile

第1回横浜国際音楽コンクール中学の部第1位、およびグランプリ。第66回全日本学生音楽コンクール東京大会第2位、全国大会第3位。第11回東京音楽コンクール弦楽部門第3位。小栗まち絵、大谷康子の両氏に師事。本学特別特待奨学生。

福田 俊一郎 第85回日本音楽コンクール

ヴァイオリン・大学4年

Syunichiro Fukuda



福田 ひろみ 第85回日本音楽コンクール

バイオリン部門第3位

Hiromi Fukuda



Profile

第59回全日本学生音楽コンクール大阪大会第1位。第17回ABC新人オーディション最年少合格。2012いしかわミュージックアカデミーIMA音楽賞。第16回日本演奏家コンクール第1位、およびグランプリ。原田幸一郎、小栗まち絵、漆原朝子の各氏に師事。本学特別特待奨学生。

Profile

第63回全日本学生音楽コンクールヴァイオリン部門小学校の部全国大会第1位。第82回日本音楽コンクールヴァイオリン部門第2位。第11回ソウル国際音楽コンクール第2位(最高位)。2016年モントリオール国際音楽コンクール第1位、併せて5つの特別賞を受賞。2015年度より公益財団法人ロームミュージックファンデーション奨学生。現在、原田幸一郎、小栗まち絵の両氏に師事。本学特別特待奨学生。

Noriko Takenaka 竹中 のりこさん



Profile

東京音楽大学を首席で卒業。読売新人演奏会に出演。NTTドコモ賞受賞。2003年ハーバー・サマーフェスティバルに招待され出演。奨学金を得てモーツアルテウム国際アカデミーに参加。04年同学研究科修了。現在ウィーン・トーンキュンストラ管弦楽団ヴァイオリン奏者。



東京音楽大学から 世界へ

奏者100人の気持ちを
一つに奏でる一体感こそ、
オーケストラの魅力

大学のプログラムを積極的に利用してほしい

師事していた先生が本学で教鞭を執られ

ていたこともあり、付属高等学校に入学。

そこは個性的で、真剣に音楽に取り組む人

たちが集まる、大変刺激的な環境でした。

実技試験や仲間のコンクール受賞など、

時には焦りやプレッシャーを感じることも

ありました。クラシック音楽について語

り合ったり、切磋琢磨し合う仲間たちと出

会えたことは、今でも私の大きな財産です。

東京音楽大学に進学して感じたのは、「望めば何でも与えてもらえる環境」であると
いうこと。国内外の著名な先生方の公開レッスンが無料で受講できましたし、大学ホールで学生による自主企画のコンサートも開催できました。

また、大学には短期留学プログラムが設けられており、私はザルツブルクのモーツアルテウム国際サマー・アカデミーに奨学金を得て参加させていただきました。短期留学は学内オーディション制ですが、応募しなければ何も始まりません。これから入学する皆さんにも、ぜひ、積極的に挑戦してほしいと思います。

大学卒業後、室内管弦楽団オーケストラ・アンサンブル金沢の正規団員として4年間勤めました。多くの外国人が在籍するその楽団で、世界各地の出身の奏者と触れ合うなか、私は次第に海外に興味を持ち始めました。同楽団の1年間の海外留学制度を利用しようと、ウィーン国立音楽大学のヴァイオリンの教授が指揮者として来日された際、彼とコントакトを取り、ウィーン国立音楽大学を受験、入学を果たしました。さらに1年後、ドイツのドレスデン国立歌劇場の短期契約員のオーディションに合格しました。

必須である語学能力

海外で活動するためには、演奏技能と同様、語学力が必要です。現地の言葉を話すことは、その国に対する敬意を表すこと。コミュニケーション能力がなければ、室内楽をすることすら困難になってしまいます。また、キャンパスに張られた掲示内容や、メディアに掲載される募集広告が理解できないと、学生向けの特典情報や卒業後のチャンスを逃してしまった可能性もあります。

仕事の内容は、日欧のオーケストラに大きな相違はありません。ただしヨーロッパでは、日本以上にオーケストラ団員が職業として確立、認知されています。そのため、オーケストラ団員を育成する事業やサポートも豊富です。

一人では演奏不可能な壮大な曲を、オーケストラは仲間の奏者とともに創造します。大人になると一つの目標に向かって心を熱くする機会は少なくなるのですが、オーケストラでは一〇〇人の奏者が指揮者に導かれ、同じ方向に向かっていく一体感を味わうことができます。その醍醐味に加え、プログラムごとに新しい作品と出会ったり、同じ作品でも経験値や奏者で視点や解釈が変わり、常に発見や感動があることもあります。

アンサンブル金沢に留学を1年延長してもらい、楽員と学生、二足の草鞋を履く生活がスタートしました。それは電車で7時間ほどかかるウィーンとドレスデンを頻繁に行き来する、ハードながらもヨーロッパのクラシック音楽にどっぷりと浸かる充実した日々でした。その後、一度は日本に戻った私でしたが、4か月後には再びヨーロッパに引き寄せられ、ウィーン・トーンキュンストラ管弦楽団に入団。現在に至っています。

第8回ロザリオ・マルチアーノ
国際ピアノコンクール
グループI 第1位およびグランプリ



第15回ヴィエニヤフスキ
国際ヴァイオリンコンクール
第7位・ネオ・クラシック・ジャパン特別賞



周防亮介
(ヴァイオリン・大学3年)

第32回ヴァルセシア
国際音楽コンクール2016
ピアノ部門第1位



2016ジーナ・バッカウアー
国際ピアノコンクール
第3位



第40回ピティナ・ピアノ
コンペティション全国決勝大会
ソロ部門特級銀賞・聴衆賞



太田糸音
(ピアノ演奏家コースエクセレンス・付属高等学校2年)

第6回野島稔・よこすか
ピアノコンクール
第1位



第70回全日本
学生音楽コンクール
声楽部門大学の部第3位・横浜市民賞



第70回全日本
学生音楽コンクール
声楽部門高校の部第3位・横浜市民賞



大高レナ
(声楽・付属高等学校3年)

第70回全日本
学生音楽コンクール
ピアノ部門高校の部第2位



2016年度武満徹作曲賞
第1位



第33回日本管打楽器
コンクール
チューバ部門第2位
第14回東京音楽コンクール金管部門
第2位



木村皓一
(チューバ・2016年大学卒業)

第33回日本管打楽器
コンクール
クラリネット部門
入選



三浦万里(ピアノ演奏家コース・2011年大学卒業)
尾崎風磨(ピアノ伴奏)・2016年大学院修了)

梶原裕介(指揮・2012年大学卒業)

樋渡希美(打楽器・大学4年)

藤井春香(ホルン・2014年大学卒業)

舟橋知奈美(ホルン・2014年大学院修了)

麻生康平(トランペット・大学1年)

若林毅(チューバ・大学4年)

佐藤由紀(クラリネット・2008年大学卒業)

小野寺緑(クラリネット・2014年大学院科目等履修生終了)

中村ありす(作曲「芸術音楽コース」・2005年大学卒業、2007年大学院修了)

第11回レスピギ国際伴奏者コンクール
第1位
第3回国際ピアノ伴奏コンクール 優勝

第2回黒海オペラ指揮コンクール 第2位

第14回イタリア国際打楽器コンクールマリンバ部門(カテゴリーB) 第2位

第5回秋吉台音楽コンクールホルン部門 第1位

第33回日本管打楽器コンクールトランペット部門 第3位

第33回日本管打楽器コンクールチューバ部門 第3位

第33回日本管打楽器コンクールクラリネット部門 入選

第33回日本管打楽器コンクールクラリネット部門 入選

2016年度武満徹作曲賞 第2位

他多数

正田彩音
(ピアノ演奏家コース・大学1年)

鶴澤奏
(ピアノ演奏家コース・大学4年)

山崎佑麻
(ピアノ演奏家コース・付属高等学校2年)

籠谷春香
(トランペット・2014年大学卒業)

トランペット部門第1位・特別大賞・
内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞・東京都知事賞
第14回東京音楽コンクール金管部門
入選

作曲家のオーディナルメッセージを知り、現代に伝える醍醐味

宮崎 貴子さん
Takako Miyazaki

ピアノ演奏家コース
2006年大学卒業
2008年大学院修了

あきらめず、先生についていく

恩師の播本枝未子先生は、常に真剣勝負の演奏を要求され、レッスンで1音でも曖昧な音を出すとすぐに止められました。大學1・2年生の頃はついていくのが精いっぱい。しかし、何度もダメ出しされても、あきらめず、くじけない任性はどんどん身についていきました。それは、先生の言葉に、決して妥協を許さない音樂への畏敬の念をはつきりと感じ取ったからだと思います。

フォルテピアノ・リート伴奏との出会い
大学院2年のかたのアドバイスで、ドイツ・ハノーファー音楽演劇メディア大学への留学を決意しました。そこで指導いただいていた先生がピアノとフォルテピアノ両方で活動されていて、フォルテピアノは「作曲家の意図をそのまま表現できる楽器」と確信し、

大学院2年のかたのアドバイスで、ドイツ・ハノーファー音楽演劇メディア大学への留学を決意しました。そこで指導いただいていた先生がピアノとフォルテピアノ両方で活動されていて、フォルテピアノは「作曲家の意図をそのまま表現できる楽器」と確信し、

私は、いろいろなことに挑戦できるのも、それがあつてこそ。5年間のドイツ留学を経たある日、デモテープを播本先生に聴いていただき、「いい感じになってきた」と言わされたときは、「目標をそのまま実現できる楽器」と確信し、

私は、いろいろなことに挑戦できるのも、それがあつてこそ。5年間のドイツ留学を経たある日、デモテープを播本先生に聴いていただき、「いい感じになってきた」と言わされたときは、「目標をそのまま実現できる楽器」と確信し、



Profile
2013年シューベルト国際コンクール
リートデュオ部門優勝(ドイツドルトムント)。フォルテピアノ・リート伴奏、女性作曲家作品の紹介を軸に演奏・執筆活動を展開。

本学で得たものは必ず実を結ぶ

小笠原 北斗さん
Hokuto Ogasawara

ピアノ
2008年大学卒業
2011年大学院修了
埼玉県新座市立第五中学校教諭

中学3年のときに、「将来はピアニストになろう」と思い始め、その後、高校のときから関根有子先生に教わっていたご縁もあり、東京音楽大学に進学しました。入学当初から、「ピアノが弾けるだけではだめだ」と思うようになり、和声をはじめとした音楽理論や、声楽、作・編曲まで、ピアノを主軸にひたすら勉強に励みました。そして、それらがいかに役立つものか、のちのち身をもつて知ることになります。

しかし、大学2年のとき、人生がリセットされる出来事が起きました。実は、私は高校の頃から、右手の握力がほとんどなくなる難病にさいなまれており、その手術に踏み切ったのです。

手術後、ある程度復活しましたが、どうしても自分の演奏に満足できず、その後、大学院に進むと、左手だけで演奏す



音楽教員に求められるものとは
ることに専念するようになりました。

大学院修了後、教員採用試験を受けて合格。4年前に、埼玉県の市立中学に音楽教員として赴任し、いきなり、クラス担任と吹奏楽部の顧問を担当しました。部活動では管楽器や指揮が未経験だったのですがいい影響を及ぼし合っていると感じます。

今後はこの楽器とともに、作曲された時代の背景、当時の音楽上の慣習なども積極的に伝えていきたいと考えています。

私は、東京音楽大学で自分の土台づくりを行っています。私が在籍していた頃にはなかつた、「音楽演奏科学」や「身体表現と音楽」の授業などを見ると、常に進化し続けている印象でうらやましく思います。これから東京音楽大学を目指す人には、限界を決め込まず、自分の選択に自信を持つため、ためらうことなく邁進していただきたいと思っています。

中学3年のときに、「将来はピアニストになろう」と思い始め、その後、高校のときから関根有子先生に教わっていたご縁もあり、東京音楽大学に進学しました。入学当初から、「ピアノが弾けるだけではだめだ」と思うようになり、和声をはじめとした音楽理論や、声楽、作・編曲まで、ピアノを主軸にひたすら勉強に励みました。そして、それらがいかに役立つものか、のちのち身をもつて知ることになります。

しかし、大学2年のとき、人生がリセットされる出来事が起きました。実は、私は高校の頃から、右手の握力がほとんどなくなる難病にさいなまれており、その手術に踏み切ったのです。

手術後、ある程度復活しましたが、どうしても自分の演奏に満足できず、その後、大学院に進むと、左手だけで演奏す

ることは、決してマイナスではありません。毎日音楽と一緒に、切磋琢磨して楽器を練習し、演奏する「集中力」は、社会に出て

〈2016年度〉合格者数

都道府県	東京都	千葉県	埼玉県	さいたま市	神奈川県	大阪府	合計
4年生(現役生)	5名	3名	2名	1名	2名	1名	合計11名
卒業生	12名	1名	2名	1名	2名	1名	合計18名
計	17名	4名	4名	1名	2名	1名	合計29名

(2017年1月14日現在)



新井 純さん
音楽教育専攻 実技専修コース 声楽
大学4年 2017年3月大学卒業予定

教職に就かずとも
役立つ経験を得た

本学の「教職課程」の授業では、学校で起り得る状況を想定したシミュレーションなど、卒業後の教育現場で役立つ、より実践的なノウハウを学べます。例えば「人の女子生徒が、ある先生のこと嫌いだと言っている。どういう言葉を投げかけるか?」といった課題が与えられ、状況設定に応じてさまざまな回答を示唆されるのです。

また、「教職課程」の先生方のご尽力により、ボランティアとして近隣の学校に受け入れていただく機会も多く、教育実習の際にも、慌てるところなく教壇に立つことができました。在学中の現場体験は、教員採用試験時に役立つのはもちろん、赴任先で生徒指導する際にも、きっと力になってくれるでしょう。そして、その貴重な財産は、企業に就職する人にも、きっと役立つ」と確信しています。

〈2016年度〉4年生の就職内定企業一覧

株式会社三井住友銀行	5名	大和ハウス工業株式会社	1名	株式会社ヤマハミュージッククリエイティング	3名
株式会社みずほ銀行	1名	戸田建設株式会社	1名	株式会社河合楽器製作所	1名
株式会社千葉銀行	1名	住友生命保険相互会社	1名	島村楽器株式会社	1名
株式会社京葉銀行	1名	三井不動産リアルティ株式会社	1名	一般社団法人日本音楽著作権協会(JASRAC)	1名
豊川信用金庫	1名	スカイマーク株式会社	1名	株式会社サンマサタバサジャパンリミテッド	1名
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	1名	さがみ農業協同組合	1名		
アコム株式会社	1名	株式会社アミューズ	1名		
他多数					

(2017年1月17日現在)



株式会社河合楽器製作所
夏目 るり子さん
ピアノ 大学4年 2017年3月大学卒業予定

初心を忘れず、
やり尽くした4年間

東京音楽大学には、「自分の限界までピアノを習いたい」と願つて入学しました。そこには清潔な練習室やグランドピアノが多数あり、また主要なコンサートホールにも近く、私は理想の環境でした。入学しました。そこには清潔な練習室やグランドピアノが多数あります。魅力的です。私が求めていたすべてが整う環境だったからこそ、入学当初の初心を忘れてことなく、充実した大学生活を送ることがでできたのだと思います。憧れだったピアノ協奏曲にも挑戦し、上智大生は「色めがね」で見られがち」と思いました。とにかく「音楽大学用した4年間。今は、「すべてやり尽した余韻」を味わっていますが、多くのことを全うした自信は、就職活動の面接時にも明確に伝わったと思います。とかく「音楽大学心配されますが、音楽大学出身であることは決してマイナスではありません。毎日音楽と一緒に、切磋琢磨して楽器を練習し、演奏する「集中力」は、社会に出て

佐々木 里菜さん 株式会社みずほ銀行	打楽器 大学4年 2017年3月大学卒業予定
一般企業への就職でも、 万全のサポートを受けられる	

からも必ず生きるものと信じています。これから就職活動に励む後輩の皆さんにも、ぜひ自信をもつて臨んでいただきたいと思います。

本学を選んだ理由は、著名な先生方や多方面で活躍する先輩が多く、特に教員や企業に就くための講座がたくさんあることを、高校時代に知ったからです。就職講座では、エントリーシートの書き方から自己PRの仕方まで学び、面接の練習や人生を振り返り見つめ直し、自分では気づかない良さも引き出していました。受講内定はもらえたなかつたでしょう。世の中を知り、社会に役立ったくて銀行に入行しますが、お客様の悩みを解決できる行員を目指します。打楽器科で身についた礼儀や人との接し方、臨機応変に動く対応力も、きっと生かせると思っています。





東京音楽大学 プレゼンツ 平和の響き harmony of peace ART × MUSIC

世界に平和を響かせる、音楽のチカラ

「日本から世界へ平和の音色を響かせたい」。本学文化力発信プロジェクトの学生がそんな大きな願いを持って企画プロデュースをした『平和の響き』公演が、二〇一六年夏に開催されました。場所は、強い平和へのメッセージを持つ原爆ドーム対岸から、ユネスコ世界遺産である清水寺舞台、世界へ日本文化を発信する拠点 東京駅前行幸通りへ。洋画家・絹谷幸二氏の絵画をプロジェクトマッチングした幻想的な空間で行われました。演奏は、ドイツを代表する「バイエルン州立青少年オーケストラ(b-i-j-o)」と本学学生との共演。「音楽は人類が最初に手にしたコミュニケーションと自己コントロールの手段ではないでしょうか?」。本学・鈴木理事長は、本プロジェクトが表現する「音楽の可能性」について、こう言及しました。「言葉は、さまざまな地域や民族ごとに進化し、簡単に通じないだけでなく、時には争いさえ起こします。しかし、音楽は、それが生れ育まれた場所や人々により多少の違いはある、常に共感し理解することができます。音楽の持つている多様性とは、そこにあると私たちは考えます」。美しい音楽は、世界が平和へ向かうための懸け橋になる!『平和の響き』は、音楽のチカラを改めて実感する四公演となりました。

2016年 8月7日(日) 原爆ドーム対岸(広島)

8月9日(火) 清水寺舞台(京都)

8月12日(金) 神奈川県民ホール(神奈川)

○武満徹弦楽のためのレクイエム

○チャイコフスキーヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35

※ヴァイオリンソロ・周防亮介

○ドヴォルジャーク交響曲第7番 二短調 作品70

○作詞・岩井俊二作曲・菅野よう子「編曲・原島篤史」花は咲く

*ソプラノ・水野友貴 テノール・吉田一貴 合唱・有志合唱団



本学は2019年4月より、音楽教育による人間力豊かな人材の育成と、そこから創出される芸術・文化の積極的な発信、地域貢献を目的に、「東京音楽大学中目黒・代官山キャンパス(仮称)」(東京都目黒区上目黒1-9)を開校する予定です。10月21日(金)、澄み渡る青空のもと、新キャンパス起工式が開催され、いよいよ本格的な工事がスタートしました。式典には、青木英二目黒区長や佐藤伸朗 東京都都

市整備局理事ほか来賓の方々、鈴木勝利理事長、野島稔学長をはじめとした本学関係者など、約100名が列席。上目黒氷川神社神職による厳かな神事の後祝賀会が開かれ、鈴木理事長は「都心に残された、歴史、文化、自然豊かな稀有な一等地に、本学の新キャンパスを構えることを誇りに思う。この地で未だ見据えた新しい教育に力を注ぎ、世界に向けて新しい音楽文化を発信していきたい」と抱負を語りました。

また野島学長は、「音楽には聴き手が非常に重要。東京音楽大学とその学生たちには、既成概念にとらわれず、物事を意欲的、自発的に受け入れる土壤と素質がある。中目黒・代官山エリアに新キャンパスを設置し、この地域の方々と新たに接していくことで、必ずや彼らは日々進化し続けるものと期待している」と述べました。

新キャンパス起工